

産直へ行こうよ! Vol.12

あおぞらいち (千厩)

農と商が連携して
商店街を盛り上げる



平成17年、千厩町千厩地内の国道456号沿いの中心市街地に建設されたまちの駅「新町JaJa馬プラザ」のテナントとして営業を始めた「あおぞらいち」。運営するせんまや青空市組合(組合員40人)は商店街の一員として、せんまや夜市をはじめ各種のイベントに参加。今年も市の地域おこし事業を活用し、音楽祭、テント市、なべ合戦など、夜市に合わせてイベントを企画・実施しました。「農と商の連携は、お互いに足りないところを補えるし、新たな発想につながることもある」と小野寺明事務局長は語ります。

明るい店頭には季節の野菜をはじめ、もち、漬け物などの加工品、豆類、工芸品などがズラリ。なかでも夏の有機栽培のトマト、秋・冬のリンゴ、年間通しては梅干しが自慢の品です。毎秋、世田谷区の三軒茶屋で行われるあおぞらフェスティバルでも、梅干しが一番人気とのことです。

14年から学校給食にも野菜を供給。将来計画されている、給食センターの大規模化を想定すると「うちだけでは供給しきれない。エリア内の産直をネットワーク化して量をまとめ、子供たちに地元の野菜を食べてほしい」と今後を見据えます。

●人との出会いが楽しい

組合設立は12年。週2回、市街地でテント販売を行っていました。「レジ当番や出荷の時、お客さんや組合員と話すのが楽しみ」と藤野ふみ子組合長。「常設の売り場ができて、組合員はハウスを建てて冬場に青物を出荷したり、漬け物や梅干しを出荷したり。家庭内でのコミュニケーションも、以前より増えました」と話してくれました。



- ◆運営…せんまや青空市組合(藤野ふみ子組合長) ☎53-2900
- ◆場所…千厩町千厩字町212
- ◆営業時間…10:00~18:30
- ◆定休日…1月1日



熊谷森見さん

防犯栄誉銅賞

熊谷森見さん(78)は舞川は長年にわたる地域での防犯活動が認められ、(財)全国防犯協会連合会長表彰(全国防犯栄誉銅賞)を受賞。10月8日、市役所本庁を訪れ、勝部市長に受賞を報告し

ました。熊谷さんは「受賞は皆さんのおかげ。今後でもできる範囲で活動していきたい」と語りました。

全日本剛柔流空手道選手権



河田小波さん(左から2番目)

抱負を述べました。河田さんは精神、身体を鍛えてほしいと父親の勧めで小学1年から空手を始めました。

100歳おめでとうございます

▶入院先の病院で親族ら11人に祝福を受けました。好き嫌いなくよく食べ、縫いものが得意だったそうです。



菅原あやさん(滝沢) 10月23日

▶自宅で誕生日を迎えたテルキさん。佐藤室根支所長ら周囲の祝福の言葉に、笑顔を見せていました。



村上テルキさん(室根町) 11月1日

商工祭は、10月22日から3日間、一関文化センター体育館を会場に行われました。地場産品パズールや工業コーナーなどが設置され、地元特産品が勢ぞろい。祝い餅つきやモッフルコンテストなど連日さまざまなイベントが行われ、会場を沸かせていました。

23日には、姉妹都市・福島県三春町の民芸品「三春人形」の製作実演が行われました。当市東山町の東山和紙を使用した張子人形づくりで、姉妹都市との伝統の技を通じたコラボレーションが実現。実演を行った三春町恵比須屋の17代当主・橋本広司さん(65)は「東山和紙は破れにくく、質感もしっとりしている」と、張子人形との相性の良さを強調。東山和紙づくり職人の鈴木英一さん(68)＝東山町＝は「今後の利用につながれば」と期待を寄せていました。

同会場には、三春町をはじめ、友好都市の宮城県気仙沼市、奥州市など近隣の市町からの出店も多数。伝統工芸品や海産物など多くの品が会場を彩りました。

- 1 ずらりと商品が並び中、店員の説明を受け、商品を吟味する買い物客
- 2 多くの出店で、見ごたえある会場
- 3 三春人形に囲まれながら、重ね、湿らせた東山和紙を張り付けていく橋本広司さん



郷土自慢の物産ずらり

商工祭

一関地方
産業まつり

農業祭

大地の恵みと味が集合



農業祭は10月30、31の両日、一関市総合体育館前広場で催されました。

開会セレモニーのちかまきで、にぎやかに祭りがスタート。市内の産直組合らによる新鮮野菜や加工品などの農産物直売をはじめ、木材製品の展示販売、地元食材を使った屋台村などが会場いっぱい立ち並びました。いわて南牛まつりも行われ、新メニューの試食や串焼き販売などが好評でした。

特設ステージでは丸太切り大会、牛の鳴き真似コンテストなど多彩なイベントが行われ、祭りを盛り上げました。会場には、本寺地区で栽培している糖度の高いカボチャ「南部一郎」のマスコットキャラクターが登場。子供たちと握手をしたりジャンケンをしたりと、人気を集めていました。

同時開催のみちのく発動機まつりには、東北、関東を中心に集まった約70人の愛好家が100台以上の発動機を展示。レトロな姿に注目が集まっていました。



- 1 同時開催のみちのく発動機まつりには昔懐かしい発動機が全国から大集合
- 2 本寺地区で生産している南部一郎かぼちゃのマスコットキャラクターがお目見え
- 3 地元産の新鮮な農産物が並びました